

## Contents

▶ 新年度に向けて .....	1
▶ 二つの国際的集会を開催！ .....	2
▶ ご寄付に感謝報告 .....	3
▶ 2015年度決算報告書 .....	3
▶ 2016年度収支予算書 .....	3
▶ Center News .....	4

## 新年度に向けて

事務局長 時盛 昌幸

### ◆昨年度の総括

昨年は、私の事務局長就任1年目、また、法人設立30周年の記念すべき年であり、次の3つの目標をみなさんにお示しました。自ら設定した目標の到達度を確認する意味を含めて、改めてご提示申し上げます。

**【目標1】** 公益社団法人にふさわしい健全な法人経営の実現：主に法人組織における責任と役割の明確化、経理の適正運用、関連法規を遵守した法人経営を行います。

**【目標2】** スタッフが支援を継続できる労働条件の改善：社会保険制度への加入、退職金制度の整備等に加え、労働に見合った適正な待遇の整備を早急に目指します。

**【目標3】** 安定的な法人経営の礎となる寄付金入れれ制度の整備：可能な限り多くのご支援者様からのご寄付をお寄せ頂けるよう、インターネット等を活用した寄付金受け入れ制度を早急に整備します。

この1年間で、目標1、目標2についてはおおむね目標を達成することができました。

目標1においては、経営と支援サービスとの分離を志向した、新しい組織体制での法人経営を行って参りました。みなさんのご協力により、支援サービスへの影響を

最小化しつつ、公益社団法人として恥ずかしくない管理体制の両立を達成することができました。

目標2においては、労働環境の改善を目指し、今年度より社会保険の加入を遅ればせながら実施いたしました。退職金制度の整備等、職員のみなさまが長期間にわたり安心して支援を継続できる待遇改善については、引き続き、経営目標の優先事項として取り組んで参ります。

目標3については、残念ながら昨年度実施することができませんでした。今年度は、確実に寄付基盤の整備を目指すべく、年内を目標にホームページの完成、寄付勧誘チラシの作成等の施策を行ってまいります。

### ◆組織と集団の違い

私はこの1年間で、集団を組織にすることを目指して参りました。集団と組織の違いとは何か。私は次のように考えております。

集団：職員それぞれが考える目標に向かって行動する。  
組織：職員が同じ目標に向かって、それぞれがそれぞれの担うべき役割を果たす。

私が事務局長に就任する前の、青少年健康センターの厳しい状況はまさに、職員が単なる集団であったために引き起こされた危機ではなかったか、私はそう考えております。

法人経営の要諦は、組織の目標、職員が向かうべき方向性をはっきりと示すことにあります。私がお示しする目標はこの1点につきます。「社会福祉事業における最大の利用者支援とは、支援の継続である」

さきほどお示した、3つの経営目標は、この方向性を達成するための行動を具体化したものにすぎません。

私が目指すのは、法人が継続的に支援を続けていくために、自分は何をすべきか、どうすればよいのかについて、職員ひとりひとりが自律的に考えることができる組織です。

### ◆公益法人こそ経営力が求められている

我々、公益社団法人は、きわめて高いコンプライアンスを社会から求められているとともに、利益については厳しいルールの下での取り扱いが求められており、無目的での内部留保を行うことができません。昨今の、めま



公益財団法人原田積善会様のご助力により  
封筒や名刺のデザインを一新

ぐるしく事業環境が変化する時代の中で、これはとても難しいことです。つまり、油断をすれば、あっという間に組織として行き詰まりを見せる、倒産してしまうのが、公益法人の経営なのです。

一方、民間の大企業には、高い収益性や莫大な内部留保等による、経営上の余裕があります。ですから、職員に危機感がなくても、職員が漫然と働き、考えることをしなくても倒産することはまずありません。昨今話題となっている、様々な不祥事の事例を見てもわかるように、悪質な法令違反を行ったとしても、大企業の多くは倒産しない状況に置かれています。

しかし、我々は違うのです。きれいごとではなく、職員一人ひとりの力で法人は成り立っており、また、考える力を職員一人ひとりが持たなければ、我々はすぐに立ち行かなくなるのです。ボランティアだからとか、非常勤だからとか、そんなことは関係ありません。どうしてお立場であろうと、青少年健康センターのために力をお貸し頂けるみなさんは全て、我々の大切な仲間です。

幸運なことに、今年度は総予算額1億円を超え、青少年健康センター過去最大規模の収益を達成できる見通しです。

昨年は、30周年記念事業として公益財団法人原田積善会様のご助力により、法人ロゴマーク、名刺、封筒、法人パンフレットなど、新生青少年健康センターにふさわしい広報ツールの制作を行うことができました。

直近では、世界的に話題を集めるオープンダイアローグの提唱者であるヤーコ・セイックラ博士を日本で初めて招へいするワークショップを主催し、成功裏に終了しました。また、10月にも、オープンダイアローグをテーマに、日本の会場とフィンランドのセイックラ教授とをインターネットでつなぐ企画をシンポジウムで行います。今後も、わが国におけるオープンダイアローグの普及・啓発の事業を率先して行ってまいります。



職員のみなさんはじめ、ご寄付を賜ったみなさま、様々なご支援をお寄せ頂きました多くのみなさまのご協力により、支援を安心して継続できる基盤ができてきた手ごたえを私は感じています。このような時期だからこそ、目先にとらわれず将来について考え、準備をすることが大切なのです。

この先も、我々が目指す臨床実践を継続するためにはどうしたらよいのか、みなさんおひとりおひとりが健全な危機感をお持ちになって考えて頂きますよう、心よりお願いいたします。引き続きまして、さらなるご指導・ご鞭撻のほど、お願い申し上げます。

## 二つの国際的集会を開催！

今年の春先から初夏にかけて、青少年健康センターと筆者自身も、国際的な交流や催しで多忙を極めました。しかも行事としてはたまたま5月に集中しました。

まず5月13日～15日には、当センターで「ひきこもり」など、ひきこもり講座を担当している斎藤環教授(筑波大学教授、精神科医)が企画し、「オープンダイアログ」(開かれた対話)と称する治療技術に関する研修会が東京・渋谷で開催されました。フィンランドから開拓的・理論的構築者であるヤーコ・セイックラ教授らを招いたこの研修会には、全国から240名の参加者がありました。当初統合失調症の介入技法として開拓されましたが、今後さまざまな思春期問題に汎用されるでしょう。



(右)ヤーコ・セイックラ教授、(左)トム・アンキル教授

一方、同じく5月18日～21日にかけて、わが国では初の国際自殺予防学会総会(IASP)および第41回日本自殺予防学会総会が東京・京橋で開催され、29か国から520名の出席がありました。日本自殺予防学会が主催者となりましたが、実は当センター創立者の故稲村博と筆者は同学会の創立理事でもあります。精神医学、法医学、社会科学、臨床心理学、看護学、宗教学分野の研究者、あるいは自死遺族や電話相談ボランティアなど幅広い関係者が参画しています。青少年健康センターも若年者自殺予防目的の「クリニック絆」を設置、今回の国際会議では電話相談関係者らによるシンポジウムに参加しました。海外からは、B. ミシャラ教授(カナダ)、スコット女史(仏)、ラクシュミ教授(精神医学、インド)らが、多彩な活動とその有効性が語られ、会場からは多くの質問が寄せられました。



国際自殺予防学会会長  
E. アレンズマン教授

(齋藤友紀雄：当センター会長、日本自殺予防学会理事長)

## ご寄付に感謝報告（平成28年1月～6月）

青少年健康センターは大勢の個人の方々のご献金、および助成団体はじめ会社などの助成金・ご寄付、補助金などによって支えられています。ここにこころから感謝申し上げてご報告いたします（敬称略）。

### 【正会員】

稲村 優子 今村 郁子 井利 由利 岩佐 壽夫 叶 香代 菊池 章 日下 忠文 近藤 卓  
齋藤 務 齋藤友紀雄 菅原 建 鈴木 光代 角田 忠之 能勢 孝子 日高 正枝 宮田タマ恵  
計420,000円

### 【維持会員】

伊藤 誠子 榎本美津恵 遠藤幸代子 大塚 慶子 國頭暉一郎 小島 弘子 嶋田 大子 戸村みどり  
中村貴美子 中村 弘 原 佐恵子 丸山 邦子 三村 蓉子 柳下 弘 渡辺 彰子 渡部実知子  
計160,000円

### 【SW会員】

SW会費＋維持会費 計225,000円  
SW会費のみ 計520,000円

### 【寄付・個人】

稲村 優子 梶原 達也 河野 治子 齋藤友紀雄 桜井はるな 嶋田 大子 角田 忠之 宮田タマ恵  
野澤徳陽子 計327,664円

### 【寄付・団体】

ウエスト東京ユニオンチャーチ 日本キリスト教団（西川口教会 頌栄教会 阿佐ヶ谷教会）  
公益財団法人原田積善会 毎日新聞東京社会事業団 計653,000円

## 公益社団法人 青少年健康センター 2015年度 決算報告書

（単位：円）

(1) 収入の部	
科 目	金 額
1 基本財産運用収入	0
2 会費収入	600,000
3 寄付金収入	12,230,000
4 補助金・助成金収入等	5,350,000
1～4 計	18,180,000
5 事業収入	68,380,000
研修講座等	2,780,000
「茗荷谷クラブ」「メルクマールせたがや」	65,600,000
「クリニック絆」	0
期間収入合計（A）	86,560,000

(2) 支出の部	
科 目	金 額
1 管理費	18,390,000
2 事業支出	68,160,000
研修講座等	6,730,000
「茗荷谷クラブ」「メルクマールせたがや」	57,800,000
「クリニック絆」	3,630,000
期間支出合計（B）	86,550,000
当期収支差額（A－B）	10,000
次期繰越収支差額	10,000

## 公益社団法人 青少年健康センター 2016年度 収支予算書

（単位：円）

(1) 収入の部	
科 目	金 額
1 基本財産運用収入	0
2 会費収入	600,000
3 寄付金収入	9,000,000
4 補助金・助成金収入等	5,250,000
1～4 計	14,850,000
5 事業収入	86,420,000
研修講座等	14,400,000
「茗荷谷クラブ」「メルクマールせたがや」	71,960,000
「クリニック絆」	60,000
期間収入合計（A）	101,270,000

(2) 支出の部	
科 目	金 額
1 管理費	16,190,000
2 事業支出	85,080,000
研修講座等	15,690,000
「茗荷谷クラブ」「メルクマールせたがや」	64,810,000
「クリニック絆」	4,580,000
期間支出合計（B）	101,270,000
当期収支差額（A－B）	0
次期繰越収支差額	0



# Center News

## 平成27年 (2015年)

### 12月

- WHO世界自殺対策会議に齋藤友紀雄会長出席  
1日～2日 於国立精研
- 会長、ドイツのマスメディアの取材 5日
- 第3回 青少年健康センターのチャリティバザー  
5日 於センター
- 東京都自殺対策検討会議に会長出席 14日
- 日本自殺予防学会理事会に会長出席 21日

## 平成28年 (2016年)

### 1月

- 齋藤友紀雄会長、支援者のニコ・ローレケ氏訪問

### 2月

- 特別体験講座 後期 「電話相談の効果を高める」  
(クリニック絆の研修兼ねる)  
19日、3月4日、18日  
講師：鉦鹿健吉 (国立看護大学校名誉講座)  
於東医健保会館 19名参加
- 実践的ひきこもり対策講座 21日  
講師：齋藤環 (筑波大学教授 センター参与 精神科医) 於筑波大学
- 内閣府自殺対策官民連携協議会議 (最終回)
- 理論講座 後期 「発達障害が疑われる方の社会適応を考える」 26日、3月11日、3月18日  
講師：大島朗生 (東京福祉大学講師 臨床心理士)  
於東医健保会館 14名参加
- 同志社大での会合に会長出席 26日

### 3月

- 内閣府自殺対策官民連携協議会議 (最終回) この会議は自殺が多発していた2006年に発足したが、自殺者数が激減したのでその役割を果たしたとして終結し、今後は厚生労働省に移管される見込み。本センター齋藤会長は10年間委員の一人を務めた。22日
- 実践的ひきこもり対策講座 27日  
講師：齋藤環  
於筑波大学

### 4月

- 実践的ひきこもり対策講座 16日  
講師：齋藤環 於林野会館

### 5月

- 青少年健康センター職員総会 (写真参照)  
職員多数が集まり、新年度への抱負を語り合い、会食、歓談を楽しんだ。 7日
- 毎日新聞社会事業団訪問  
会長、時盛事務局長 11日
- 「オープンダイアログワークショップ」をオープンダイアログネットワークジャパンと日本思春期学会との共催で開催した。 13日～15日
- 国際自殺予防学会開催に会長出席  
18日～21日 於東京スクエアガーデン
- 実践的ひきこもり対策講座 21日  
講師：齋藤環  
於東京セミナー学院
- 被害者支援センター総会・理事会に会長出席

### 6月

- 実践的ひきこもり対策講座 19日  
講師：齋藤環  
於筑波大学
- 平成28年度定時総会 22日
- 理論講座 前期 「「ひきこもり」を考える」  
23日、30日、7月7日  
講師：藤堂宗継 (歌舞伎町メンタルクリニックカウンセラー 臨床心理士)
- 「クリニック絆」電話相談員研修会 28日
- オープンダイアログネットワークジャパンの事務局長に、時盛事務局長が就任

### 7月

- 実践的ひきこもり対策講座 16日  
講師：齋藤環  
於文京区区民センター



発行・公益社団法人 青少年健康センター

〒112-0006 東京都文京区小日向4-5-8 三軒町ビル102 TEL: 03-3947-7636 / FAX: 03-3947-0766  
<http://skc-net.jp> E-mail: [info@skc-net.jp](mailto:info@skc-net.jp)